

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200919		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	宇部西グループホーム		
所在地	山口県宇部市大字際波字東河田287番地の1		
自己評価作成日	平成29年6月23日	評価結果市町受理日	平成29年11月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宇部西リハビリテーション病院との統合により病院内の事業所となった。入居者の体調不良時の早めの受診や入院治療が行えるようになり、必要な医療サービスを受けると共に今後の方向性を情報共有しながら検討する体制を作っている。入居者一人ひとりの状態に合わせたサービスが提供出来るよう、医師や看護師、療法士や栄養士などと連携を図り健康面及び栄養面での管理に努め、安心して生活出来るよう支援している。

病院内の研修など、勉強する機会も多くなり、事業所内でもスタッフ主体に勉強会を定期的に行い、知識や技術のスキルアップに繋げている。外出や行事も定期的に行い、楽しみを持って生活出来るよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は月1回の会議の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けておられる他、日常業務の中や委員会活動でも気軽に意見や提案が言えるように取り組まれています。サービスの向上や業務改善についての課題は、職員から意見や改善策を求めるためにアンケートを実施され、アンケートを通して職員全員の了解が得られるように工夫をしておられます。介護計画を作成される時には、作業療法士や理学療法士、言語聴覚士等、専門職の意見を反映しておられ、利用者一人ひとりのその時点にそったケアに活かせるように取り組まれています。外部研修や法人研修に職員が参加できるように支援されている他、事業所内で年3回、勉強会を実施され、利用者へのサービスの質の向上に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	病院の基本理念を朝礼時に唱和し、事業理念についてもステーション内や各ユニットに掲示している。全職員が同じ方向に向かうよう取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の会議で唱和している他、事業所目標作成時やケースカンファレンス時に、理念をもとに話し合って確認し、共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に加入しており、お祭りや敬老会など行事には声を掛けて頂き交流を図っている。地域の中の施設であることを常に意識するようにしている。	自治会に加入し、地域の秋祭りや敬老会に、利用者は職員と一緒に出かけている。法人主催の秋祭りには地域の人が餅つきや豚汁づくりで参加している他、多くの人の参加があり、地域ぐるみで交流している。病院主催の「看護の日」イベントには、利用者の作品（編物、水彩画等）を展示して参加して、交流している。ボランティア（歌、三味線、踊り）の来訪があり、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な活動や地域学習会を開催し地域と共に学んでいき姿勢を持っている。病院や同敷地内の施設と共同で研修会を実施しており、認知症に関するイベントも行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の意義を伝え、外部評価の指摘事項に関しては改善できるよう取り組んでいる。自己評価は全職員の意見を参考にし、日々の業務の見直しの機会と考えている。	チーフは評価の意義について職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布して記入してもらいまとめている。自己評価は日々の業務の見直しの機会ととらえており、職員全員で取り組んでいる。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、内部研修の充実や事故防止の取組みなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、市職員、民生委員、入居者、家族、職員が参加し事業所の現状報告やサービスの実際、評価など、取り組みについて話し合いサービスの向上に努めている。年2回、認知症対応型通所介護と合同開催にて、交流する機会を設けている。	会議は年6回(内2回は認知症対応型通所介護と合同)定期的に開催し、利用者の状況や活動報告、行事予定、ヒヤリハット・事故報告、外部評価、内部研修(勉強会)等の報告を行い、熱中症や感染症等、季節に応じた健康留意点について話し合いをしている。地域で開催しているサロンの紹介があり、そこでの意見をサービス向上に活かせるように取り組んでいる。	・地域メンバーの拡大 ・会議の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点などあれば、相談をさせてもらっている。運営推進会議にも参加してもらっている。サービスの内容や取り組みを伝え、意見交換や相談など協力関係を築くよう努めている。	市担当者とは運営推進会議時の他、電話で情報交換や市のサービスについての相談を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターは同一施設内にあり、運営推進会議時や直接出向いて情報交換や相談を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	病院の身体拘束委員会や研修会へ参加している。マニュアルや研修会の資料は、いつでも回覧出来るようにしている。指針に沿って身体拘束しないケアについて職員も理解している。時間帯により玄関の施錠を行っている。	病院の身体拘束ゼロ推進委員会が実施する研修や法人の研修会で学び、職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。外出したい利用者があれば、一緒に出かけるなどして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、職員間でお互いに注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内で開催する研修会に参加している。参加出来なかった職員には、研修資料を必ず回覧の上サインし、理解を深めるよう伝えている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度について、必要であれば相談できる体制をとり、活用に結びつけるようにする。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問の解消に努め、必ず家族へ説明し、理解や了承を頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族の思いを伝えて頂けるような関係作りに努め、意見や要望があれば職員全体で共有し検討している。相談や苦情を受ける窓口、外部機関、第三者委員など説明している。	苦情相談窓口や受付体制、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。家族からは運営推進会議参加時や面会時、家族会時、行事参加時、介護計画作成時、電話等で意見や要望を聞いている。家族からの意見や要望は連絡ノートに記録して職員間で共有している。毎月1回、利用者の暮らしの状況がわかる事業所だよりと預り金報告を家族に送付して、相談や意見が言いやすいように工夫している。家族からは利用者の状態やケアに関する相談等個別ケアに関する相談や要望があり、介護計画に反映して迅速に対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、事業所内の会議を開催し職員の意見や提案を聞き検討する機会を設けている。全職員での話し合いが難しい為、必要時にはアンケートを実施しより良い案を導き出すよう働きかけている。	管理者は月1回の会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日頃から委員会活動や担当業務の中でも意見や気づきが言えるように配慮している。職員は提案したい内容を持って会議に参加し、サービスの向上や業務改善についての課題は、職員からより良い意見や改善策を求めるためのアンケートを実施し、アンケートを通して職員全員の理解を得ることができるよう工夫して取り組んでいる。レクリエーション時の歌詞カードの作成や内部研修(勉強会)の時期や内容等の意見を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意欲的に働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。必要時には職員の理解を得て、お互い協力し合える環境作りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部及び外部研修に可能な範囲で、偏りなく全職員が参加できるよう配慮している。スタッフ同士が注意し合い、向上するよう努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は復命書を提出して、回覧し、内部研修の中で伝達して職員全員で共有している。法人研修は毎月実施しており、関連ある研修に(感染症対策、認知症について、アサーション研修等)参加している。法人の中にある院内感染症対策委員会や身体拘束ゼロ推進委員会、教育研修委員会、看護部研修委員会の報告や各委員会主催の研修にも必要に応じて参加している。内部研修(勉強会)は管理者やチーフが講師になって年3回実施(グループホームの役割、認知症について、ノロウイルス、感染症、介護時に不安や疑問に感じたこと、転倒、脱水等)している。新人職員は日々の業務の中で介護の知識や技術を働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、外部研修等で交流する機会を持ち、他施設との違いや共感することなど参考に、サービスの質の向上に取り組むようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話す機会を持ち、傾聴しその中から不安や要望を見出し、家族からの情報を得てプランに反映できるよう努めている。話してもらえる関係作りに取り組んでいる。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族と十分に話す機会を持つようにし、不安なこと、求めていることなどを把握、全職員で共有しよい関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で担当ケアマネジャーがいる場合は、一緒に検討している。必要な支援がグループホームであるかを見極めるようにし、他の支援を含め情報を提供し適したサービスが受けられるようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共同生活であることを理解し、その方にとって家となるよう接し、時には冗談を言い合いながら安心して楽しく生活でき、入居者同士も良い関係が保てるよう支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支えているのは私達だけでなく、まずは家族であることを念頭に置き、家族の要望も大切に家族の負担にならない範囲で一緒に入居者を支援している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会があった場合、ゆっくり話ができる環境作りを行っている。近所の公園や馴染みのある場所へ外出する機会を設けている。	孫やひ孫を連れての家族の面会や親戚の人、近所の人の来訪がある他、馴染みの公園への外出や電話、手紙での交流を支援している。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や法事への参加、墓参、地藏参り、外出、外食、正月の外泊等、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が気軽に話せるよう、ソファなど準備し環境作りを行っている。関わりの中で思いや希望を聞くようにしている。孤立しないよう職員が間に入り良好な関係が保てるよう配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後もご家族の負担にならないよう連絡を取り必要であれば、相談や支援に努めている。いつでもその窓口があることを伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で希望や意向、不安なことなどを把握するよう努めている。必要時には担当を主体に職員全体で検討し対応方法を導き出している。	入居時のフェイスシートやアセスメント表を活用して、生活歴や趣味、暮らし方の希望を聞いている他、日常の関わりの中での利用者の発した言葉や表情、行動をケース記録に記録し、思いや意向に関連する事項はケース記録の特記事項欄に記録して把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報をもらいフェイスシートを作成しており、定期的に見直しを行っている。サービスの内容もいつでも確認できるように保管しており、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わる中でいつもと違うなど変化時には記録に残すと共に、詳細に伝えるよう働きかけている。入居者の状態に応じた対応をするよう、情報の共有に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に状況説明を行った上で要望を聞き、担当職員を中心に情報収集及びプランの評価や考察を行っている。必要時には主治医や看護師、療法士や栄養士等相談し、介護計画書を作成している。	利用者を担当する職員と計画作成担当者が中心となって月1回カンファレンスを行い、本人の意向や思い、家族の意向、かかりつけ医、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等関係者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、6か月毎に見直している他、利用者の状態に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違った状況については、ケース記録に記入すると共に連絡ノートや申し送り帳などを活用し、情報の共有に努めている。必要時には、介護内容の見直しを担当中心に全職員で行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々入居者の状態は変化している。その日その時に応じた対応ができるよう努めている。家族へも必要時には相談し支援の変更を伝えている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとり生活してきた環境が違うことを理解し、地域の資源が活用できるよう取り組んでいる。ボランティアの受け入れも行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には宇部西リハビリテーション病院（内科のみ）にて対応している。いつでも相談できる体制を作っている。他科は、入居者や家族が希望する医療機関を受診できるよう連携を取りながら支援している。	本人、家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。事業所では月1回の定期受診や訪問歯科診療時の支援をしている。他科受診はかかりつけ医の紹介状を持参し、家族の協力を得て支援している。受診結果は家族には紹介状の返答をみてもらい、職員とは連絡ノートで共有している。休日、夜間、緊急時には訪問看護師や協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護が来所しており、状態観察及びアドバイスを受けいている。必要時、主治医や訪問看護と連携を図り安心して生活できるよう健康管理の支援を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	宇部西リハビリテーション病院の地域連携室と連携を図り相談や医療機関との情報交換をし、早い段階で治療、入退所ができるよう支援している。相談しやすい環境づくりに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向、事業所の役割を理解した上で、主治医（宇部西リハビリテーション病院）と相談し方針を共有、より良い支援ができるよう取り組んでいる。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は早い段階から家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医と相談して、移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	リスクマネジメント会議にてリスク報告や事例検討を行い、全職員にも伝達している。ヒヤリハットの啓発にも努めている。研修や勉強会にも参加し知識を得ると共に、実際に行動できるよう働きかけている。	ヒヤリハット、インシデント、アクシデントレポートにその場にいた職員が内容や原因、反省、再発防止策を記録し、回覧して職員に周知している。法人のリスクマネジメント会議での助言や法人他部署での事例を元にして月1回の会議の中で再度話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。AEDの使用手法や転倒、脱水、感染症予防等についての勉強会を実施しているが、全ての職員が実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者を含めて災害、水害時の避難訓練を定期的に行っている。災害時の避難訓練の拠点としての役割について、地域との協力体制を築くよう取り組んでいる。	消防署の協力を得て年2回、昼夜の火災を想定した同一敷地内にある法人施設合同での訓練の他、同一建物内でも年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練、避難経路の確認、通報訓練、消火器の使い方を職員と利用者が参加して実施している。事業所の火災発生時には病院の防災センターに直接つながるようになっており、法人内での協力体制ができています。事業所内でも年1回、昼間の風水害を想定した避難訓練を実施している。法人では地元自治会や消防署と協議して、災害時の地域の拠点施設の役割を担うなど、地域との協力体制を築くよう取り組んでいる。災害時の非常用食品は法人(病院)で備蓄している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会により啓発や研修への参加。入居者一人ひとりに合った言葉掛けや対応をするよう気を付けている。気さくな声掛けをすることもあるが、人格やプライバシーは尊重するようにしている。	職員は接遇研修で学び、利用者を人生の先輩として敬意を持って接しており、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。不適切な対応があれば管理者やチーフが注意し、指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりを大切にし思いや希望が話せるような雰囲気作りをしている。動きや表情などのサインも大切に、職員で共有すると共に自己決定できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活スタイル、ペースを重視し自由に生活できるよう支援している。ゆったりとした気持ちを自分自身が持って関わるよう働きかけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入や美容院への外出等、家族と相談しながら支援している。外出が難しい入居者の対しては、出張美容院を利用してもらいカットや毛染めをしてもらっている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	病院の厨房からの提供となっており、現在は食事準備などは行っていない。嚥下状態や体調不良時等、入居者の状態に応じて食事形態を準備している。おやつ作りを行い、季節に応じたお菓子を一緒に作り、一緒に食べる、片付ける等行っている。	食事は法人の管理栄養士が立てた献立でつくった併設病院の厨房からの配食を利用している。事業所の菜園で収穫した旬の野菜や果物で1品つくることもある。利用者の状態に合わせた形態や食品交換を行い利用者個々に合った食事を提供している。2カ月に1回ある給食委員会や食事アンケートの中で、利用者の好みや要望を伝えている。利用者はテーブル拭きや箸を配る、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。おやつづくり(ワッフル)や季節の行事食(おせち料理、節句料理、節分、七夕、そうめん、敬老の日、クリスマス)、家族と一緒にでの外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院管理の為、管理栄養士による献立にて栄養のバランスは取れている。一人ひとりの状態に合った形態や量にて提供し嗜好にも合せている。食事・水分摂取量や体重の増減など観察し、必要時には主治医や栄養士に相談している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分で難しい入居者に対しては職員が介助している。夜間には義歯の洗浄を行っている。必要時、訪問歯科や言語聴覚師の相談も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った定期的なトイレ誘導を行っている。入居者のサインや声かけの方法など、職員が共有しトイレで排泄できるよう支援している。	ケース記録の生活健康記録を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に合った言葉かけや対応を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、細目に水分補給を勧めると共にオリゴ糖や野菜ジュースなどを使用し自然排便を促している。食後にはトイレ誘導をし習慣化するよう働きかけている。必要時には、主治医の指示に従って対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望があればいつでも入浴できる体制を作っている。入居者の状態や希望に合わせて、その人のペースでゆっくり入浴できるよう配慮している。本人の状況によりシャワー浴や清拭を行うこともある。	入浴は毎日、9時から11時までの間と13時30分から14時30分までの間可能で、入浴時間や順番、湯加減、好みの石鹸等、利用者の好みに合わせて、ゆっくり入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、シャワー浴や清拭、部分浴、足浴など個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活パターンを作るよう一日を通して休息や活動等、個々に合せて支援している。環境設定や安心して眠れるよう声掛け等も配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し、薬の作用や副作用など確認できるようにしている。内服薬変更や臨時薬開始時には連絡ノート等にて伝達し状態観察を行っている。必要時には主治医へ相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の状態に応じて可能な範囲で役割を持って過ごせるよう支援している。行事や日々の活動の中で楽しむ時間の確保にも努めている。	居室の掃除(箒で掃く、掃除機をかける)、カーテンの開閉、ゴミ捨て、新聞(夕刊)を取り込む、タオルをたたむ、洗濯物をたたむ、洗濯物を居室に仕舞う、入浴の準備、テーブル拭き、食器洗い、縫い物、雑巾を縫う、菜園の水やり、草取り、野菜の収穫、歌を歌う、将棋、テレビやDVDの視聴、新聞や本を読む、ぬり絵、折り紙、かるた、トランプ、風船遊び、体操(足、腕)、連想ゲーム、しりとり、お手玉、壁画づくり、祭りに参加、来訪しているボランティアとの交流など、利用者の喜びや張り合いとなるように楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはベランダや少人数で散歩に出掛けたりしている。行事で定期的に外出する機会も設けている。家族にも協力してもらい外出を楽しめるように支援している。	ベランダでの外気浴や法人敷地内の散歩、季節の花見(桜、バラ、コスモス、紅葉)、ドライブ(江汐公園、黒石神社)、初詣に出かけている他、家族の協力を得て美容院の利用や買物、外出、外食、法事への参加、墓参など、利用者の希望に添って外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんど事業所にて管理している。家族の同意のもと少額の金銭を所持している方もいる。希望時には、いつでも使用できるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば、いつでも対応するようにしている。(家族の同意を得て対応するようにしている)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下など、季節に応じた壁画を作成し飾っている。季節に合った花なども飾っている。ベランダには花や野菜などを植え、季節感を取り入れるよう配慮している。	事業所は2階にあり、表玄関までのアプローチは屋根があり、通路には花や木が植えてあり、日常の散歩道になっている。リビングは明るく広々として、室内には季節の花を飾り、テーブルや椅子、ソファを配置している。ベランダにつながる菜園には季節の野菜や果物が植えてあり、草取りや成育、収穫などを日々楽しめるように工夫している。壁面には利用者の手づくりの編物や季節の飾り物を飾っている。共用空間は清潔であり、温度、湿度、換気、音に配慮し居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを準備しゆっくり過ごせる環境作りを行っている。過ごす場所は自由であり、ユニット間も自由に行き来できるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具、日用品など持参してもらっている。入居者と一緒に担当職員を中心に、本人が安心して生活できる環境作りに取り組んでいる。	居室は畳とフローリングの部屋がそれぞれあり、利用者は、好みに合わせてコーディネートしている。テレビや箆笥、衣装ケース、椅子、仏壇、三面鏡、飾り棚等、本人が使い慣れたものや好みのものを持ち込み、若い頃の写真や祝色紙、カレンダー、自作品のぬり絵等を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせると共に、自分でできることは継続して行ってもらうようにし、能力を維持できるように自立支援に努める。		

2. 目標達成計画

事業所名 宇部西グループホーム

作成日：平成 29 年 11 月 27 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故防止の取り組みについては、ヒヤリハットやインシデント、アクシデント等で対策を検討し対応している。しかし、応急手当や初期対応については、対応を学んではいるが実践できるまでに達していない。	・応急手当や初期対応の実践的な訓練を定期的に行い、実践力を身につけていく。 ・実践力を身につけると共に、危険予知に対する知識や問題視する能力を養うよう自己研鑽する。	・応急手当や初期対応の訓練を定期的を実施し、担当スタッフも全職員に順に行ってもらう。 ・研修や勉強会などに参加してもらい、情報を共有すると共に自己研鑽とスキルの向上に努める。	1年
2	5	運営推進会議への参加メンバーについて検討はしてきたが、依頼するまでには至っていなかった。会議の内容については、アドバイスや意見交換できるような進め方を検討すべきと考える。	・運営推進会議について、家族や自治会の方に説明し参加してもらえるよう依頼する。 ・会議の内容を検討し、意見交換、サービスの質の向上に繋げていく。	・運営推進会議について、家族や自治会の方に説明と参加の依頼をする。地域行事等へ参加し交流を図る。 ・会議の内容として、情報を伝えるだけでなく、意見交換や話しやすい関係作りや雰囲気作りに努める。話し合いの内容を検討しサービスへ繋げていく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。